

# 「農業委員と議員とのカフェ・ド・ギカイ」

## テーマに対する参加者の意見

### テーマ1：農地の現状と課題

### テーマ2：農業の振興について

分野	参加者の意見（簡略化して記載）
耕作放棄地	農地パトロールを実施すると耕作放棄地が少ないと感じる。 平坦な農地で、農業のしやすい町である。
	米の値段が低いなどの理由で農業後継者が不足し、今後も耕作放棄地が増え続けると思われるため、農地の受け手となってくれた方に対し、行政側が支援金などを出す施策を行うなど「行政の力」が必要である。
	今、条件の悪い農地は、標準小作料を下げれば耕作してもらえませんが、10年後は、農業従事者の高齢化により、耕作放棄地が増え深刻な問題に発展するだろう。
	耕作放棄地から農地へ復元するのは、個人では難しい。
	農地パトロールを行った際、耕作放棄地が増えてきていると感じている。 耕作放棄地が増えた理由は、畑地化されているところやぬかるんだところ、区画整理が行われていないところなどがあり、農作業がやりづらいからだと思う。 今後、耕作放棄地を増やさないためにも区画整理が大事になってくる。
	遊休農地は、条件の悪い土地が多い。
土地の賃借	高齢化で担い手不足のため、農地の長期賃借ができない。
	来年の4月以降、農地の賃借の方法が2つになる。
農地取得	令和5年4月以降、農地の権利取得の5反歩以上という下限面積が撤廃されたため、様々な方が農地を取得できる機会が増えた。
	農業をするための農地取得の際、以前は他人の土地しか取得できなかったが、今は、農地バンクを通して親の土地を子に無償で貸すことができるようになった。
農業従事者	小さな農家（30a未満）は減っている。
	宝積寺上と下も農事組合が解散し、農業従事者も減ってしまった。
	農業をやめてしまう理由の1つ目は高齢化で担い手不足である。
新規就農者	若手の新規就農者はいるが、数が少ない。若手農業従事者を増やしていくためには、将来的に営農組織を作るなどの検討を始めなければならない。 農業をはじめるときには、土地・農機具・農業知識・労力などが必要となるため、営農組織を充実させていく必要がある。
移住	農業に関心のある若者に呼び込みをして、本町の魅力を知って、住

分野	参加者の意見（簡略化して記載）
雇用就農	雇用就農で体験者を増やし、本格的な農業へつなげればよい。
農業の多様化	<p>中心的経営体（大規模農家）で進めてきた「人・農地プラン」から「地域計画」に変わり、多様な経営体で今後の農業を維持・発展させていくことになった。</p> <p>大規模農業も大事だが、江戸時代から続く家族型農業も守っていかなければならない。これからの農業は、多様化していった方がよい。</p>
農産物価格	農産物の価格の低さで、農業が生業として成立しない時代。
転作	<p>国は、生産調整をしている農地に転作を推奨しているが、時限立法で法律の内容が頻繁に変わるため、農家は先が不安で新しい作物に手が出せない。</p> <p>国は、転作奨励金をもっと多く出し、生産者米価を16,000円以上にしなければ、今後、日本の農業は守れない。</p>
堀ざらい	堀ざらいも地区みんなでやるべきだが、今は農業従事者の2、3名で行っている状態。
草刈	<p>町が「草刈は地権者が行う」とルール化すれば、農地を借りる人の負担が減ると思う。</p> <p>借りた人が除草作業を含め全部行うことが慣習になっている。</p>
集約・集積	農業従事者が減り、草刈りや水回りの管理が間に合わないため、結局は業者に依頼し、かかった費用は交付金から払う形になっている。集約化は良い面もあるが、悪い面もある。
6次化	農水省の推奨した6次化は赤字を生み、農家に受け入れられなかった。
農地水	町が「農地・水・環境保全向上対策事業」を推進するのは非常によいこと。
交付金	「多面的機能支払交付金」に大いに期待している。
サポート体制	新しい作物を作ろうと興味を抱いている人に対し、作物の育成管理・収穫・販売までをサポートできる体制を作れば、チャレンジする人の後押しにつながる。

分野	参加者の意見（簡略化して記載）
設備投資	<p>農業をやめてしまう理由の1つに農機具などが高くて購入できないことが挙げられる。</p> <p>これを防ぐためには、農機具の共同所有などで農業の継続をみんなで支援していくことだと思う。</p>
	<p>農機具が高いわりに助成率・補助率が低いことが問題である。</p> <p>経営規模に応じて、農機具の設備が順次対応できる形を作ればよい。</p> <p>今後、離農農家の規模が拡大することに伴い、請け負う側の設備投資も増え大変になってくる。生産者米価を固定で20,000円にしてくれたらいいのだが。</p>
	<p>土地改良で大型農場にしても大型機械の設備投資がエンドレスに続き、蓄えられない。</p>
	<p>スマート農業を導入しても補助金だけでは足りない。</p>
販路拡大	<p>農家の収入不足を打開するためには、みんなで知恵をしぼり、海外への販路を見出すほかない。</p> <p>そのために、町はJAや総合商社と連携して、国の施策を待たずとして、先陣を切って突破口を開けてほしい。</p> <p>みんなで協力して次のステージへトライしたい。</p>
	<p>欧米での日本酒人気をもっと高め、販路を拡大するためには、大吟醸酒など最高に美味しい酒を広めていく必要がある。</p>
	<p>諸外国と比べ、日本の米はとても美味しい。中国人の富裕層が日本で炊飯器を買っていくのを見ると美味しい米の需要は充分にあると思う。</p> <p>美味しい米をいかにして作り、どうやって届けるかを模索することが大事だ。</p>
地域の集まり	<p>町の活性化を支える地域の集まりの出席率が悪いので、議員のみなさんが率先して、地域を盛り上げ頑張ってもらいたい。</p>
	<p>今までは、女性が会合に出て話し合う場が無かったので、今後は、女性を巻き込んで、女性中心の集まりやすい活動になるように努力していく。</p>
	<p>集落懇談会は農業従事者しか集まらず、参加者が少ない。</p>
	<p>高根沢町に人を呼び込むためにも、水も美味しい、米も美味しい、災害も少ないなどのアピールを発信していかなければならない。</p> <p>お盆に帰省した家族の楽しみや、人を呼び込むためのイベントとして「たかねピア夏祭り盆踊り花火大会」の復活を望む。</p>
	<p>お祭りなど公民館活動が無くなり地域が衰退してしまったので、これに対する良い施策を打ってほしい。</p>